

# 一 西 だ よ り



豊川市立一宮西部小学校通信  
令和7年10月10日 第17号  
発行;校長 村上謙一

## 【修学旅行引率のお礼の手紙をいただきました】

ご本人の承諾を得て、お手紙の一部を抜粋してご紹介させていただきます。「…先生方の事前の情報のおかげで、子どもたちもいろいろと予測できたり、考えて行動することができました。万博はやはり混みあっていたと聞きました。それでも私たち親だけでは体験させてあげられないことを学ぶことができたのではないかなと思います。奈良でも教科書ではわからないこと、実際に歴史や文化を見て触れることができたと言っていました。帰ってきてから、奈良の寺院に感動したと言っており、もう一度あの迫力を体験したい。もっと奥深さを学びたいと言っております。…一生に一度の修学旅行が、万博と奈良で私はよかったと思っています。…」

今年の6年生に限られた万博訪問のチャンスをつかむのか、例年を踏襲するのか。「チャンスの神様には前髪しかない」と言いますが、正直のところ、ゆるぎない自信があったわけではありません。育てほしい子ども像に照らして、修学旅行の本来の意味を再考した結果、これがベターと考えたからです。決めてしまえばそのあとは説明責任を果たし、よりよい学びに向けて修学旅行の前後を組み立てる。最後は子どもを信じるだけです。例年踏襲を改めるということは過去のデータが使えなくなる分、業務が増えることを意味します。ご質問やご指摘も、異なる角度からの価値の再考の機会ととらえて言語化に努めてきました。そこまでしてでも「やってよかった」と思えるお便りでした。心から感謝します。

## 【児童会活動がプロジェクト立ち上げ型に変身】

9月29日(月)6限、5・6年生の集会で若手の先生方がプロジェクト活動の始動についてプレゼンテーションを行いました。教育基本法第1条に「…平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質を備えた心身ともに健康な国民の育成を期して行われなければならない」とあり、これまでの児童会活動は執行部を中心とした議会制民主主義を基本とした代議員制度をとっていました。今回のプレゼンテーションではこれを、会社設立に似たプロジェクト立ち上げ型として、児童に当事者意識と主体性を育もうとしているようです。若い先生の主体的な取組と、子どもたちの創造性がかみあって、どんな活動が生まれるのか、あるいは生まれないのか。どちらにしても動いていることが頼もしいです。

## 【早くもプロジェクトが立ち上がる！】



10/3 現在、中庭の水槽管理や演劇発表など6つのプロジェクトが立ち上がっています。発案者は企画書をつくって掲示板でみんなに知らせます。こうしていっしょに活動する仲間を集めます。「私はこれがしたい！」この思いがスタート。どうしたらできるのか、みんなのためになるのか、仲間は集まるのかなど、動き出すことで経験できることの全てが10年後の社会で生きていくために必要な力となって、みなさんの心と体に残ります。うまくいかなかったら、それは失敗ではなく、やりなおせばいい。「トライ&エラー(挑戦と失敗)」ではなく、「トライ&ラーン(挑戦から学ぶ)」でいきましょう。

## 【フッ化物洗口についての学校保健集会】

9/30(火)豊川市保健センターから歯科衛生士のピタコチョ先生にお越しいただき、10月より全校で始めるフッ化物洗口についてお話をいただきました。

## 【秋の芸術鑑賞会】



10/3(金)春日井市からアンサンブルYEAA!!様にお越しいただき、マリンバを中心とする演奏や和太鼓を楽しみました。「夢をもって！」というメッセージが子どもたちの心に届いていました。本校が目指す「主体性」の育成も「自分がやりたいことって何？」が出発点です。

## 【ファーストステップ研修 模範授業 森一葉先生】

市内の小中学校に勤める経験4～5年目の全先生方に対して、本校の森一葉先生が道徳の模範授業を行いました。子どもも先生も、頑張りました。